

# 意欲を高め、基礎的・基本的な力を培う新たな取組

札幌市立常盤小学校

## I 取組の重点

### 1 テーマ

「意欲を高め、基礎的・基本的な力を培う新たな取組」

### 2 テーマの意図

全国学力・学習  
状況調査の結果  
の分析から

全国学力・学習状況調査は、全国一斉に実施され、自校の児童の結果が、全国の中でどのような状況にあるのかが示された。この結果の分析は、自校の児童の実態を把握するとともに、これまでの教育活動の取組を検証し、改善の方向性を見出すことにつながる。そのことは、学校改善の一側面を担うものである。

このような考えのもとに本校においても全国学力・学習状況調査の結果を分析した。本校の今年度の結果は、およそ次のようなものである。

<国語>

- 「話すこと・聞くこと」 全国平均と同程度である
- 「書くこと」 全国平均を下回っている
- 「読むこと」 全国平均を下回っている
- 「言語事項」 全国平均を下回っている

<算数>

- 「数と計算」 全国平均と同程度である
- 「量と測定」 全国平均と同程度である
- 「図形」 全国平均を下回っている
- 「数量関係」 全国平均を下回っている

このような状況を踏まえ、本校における課題について改善を図るため、上記のテーマを掲げ、具体的な取組を実施することにした。

### 3 本校における全国学力・学習状況調査等の活用の進め方

学校評価への活用

#### (1) 学校評価の指標

本校では、学校評価の指標の一つとして、全国学力・学習状況調査の結果を活用した。

- ① 次年度の教育課程の編成を検討する際に、学力調査の分析結果を改善のための資料として
- ② 学校独自の学力調査との相関関係を検証し、他学年の取組の資料として

#### (2) 生活指導の資料

児童の実態を把握し、生活指導をしていく際に、児童質問紙調査の結果を児童の生活リズムを把握するための参考資料として活用した。

児童の指導への活用

## II 取組の具体化

国語における課題

### 1 本校における学力・学習状況に関する課題～全国学力・学習状況調査から

#### (1) 国語における課題

全体的に全国平均を下回っている。特に「読むこと」では、大きく落ち込んでいる。

国語における課題としては、次のようなことがあげられる。

- ① 「書くこと」においては、分かったことや自分の考えたことを書くことに抵抗感をもつ子が多く課題である。

算数における課題

- ② 「読むこと」においては、心情や場面の様子をとらえて読んだり、目的や意図などに応じて内容を的確に読み取ったりすることに課題がある
  - ③ 「言語事項」においては、当該学年の前までに配当された漢字を書いたり、語句を使い分けたりすることに課題がある。
- (2) 算数における課題  
全体として概ね全国平均程度である。その中で、「図形」と「数量関係」では、やや下回っている。  
算数における課題は次のようなことがあげられる。
- ① 「図形」においては、基本的な平面図形の定義や性質について理解することに課題がある。
  - ② 「数量関係」においては、グラフを用いたり、数量の関係を式で表したりすることに課題がある。
  - ③ 「数と計算」において、基本的な四則計算、特に今回の学力調査では、小数の計算に課題があり、個人差も大きい。

朝読書の推進

2 改善の具体化

- (1) 「朝読書の時間」の設定  
「読むこと」の課題に対応すべく、今年度から週2回(火・木)の始業前に10分間の「朝読書の時間」を設定した。継続して取り組むことにより、読書に親しむ意識を高めることをねらいとしている。



漢字キット

- (2) 「漢字キット」の活用  
漢字の部首を分解したキットを作成し、漢字を学習するときの導入時などに活用した。ゲーム感覚で楽しく学習できることをねらっている。

算数教室

- (3) 「算数教室」の実施  
基礎的・基本的な事項の定着をねらって給食準備時間に実施している。パソコンとプリントを併用し希望する児童が取り組んでいる。パソコンでは、エクセルを利用した自作ソフトを作成し、四則計算の易しいものから順に挑戦できるように配列している。現在は、パソコンの問題が終了した児童がプリントに取り組んでいる。この「算数教室」は、2名のTT担当教諭と退職教員等外部人材派遣事業で配置になった教諭が実施している。

算数フォローアップ教室

- (4) 「算数フォローアップ教室」の実施  
6年生の算数において全体的に習得の悪かった単元や個人差が大きかった単元の実施後、放課後時間を取って希望者に行った。6年生の2名の担任と退職教員等外部人材活用事業で配置になった教諭が協力して実施した。

Ⅲ 取組例の実際

一斉に行い、読書に浸る

1 「朝読書の時間」の設定

- (1) 本校における朝読書の原則  
朝読書は昨年度・今年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ下記の原則で実施している。
- ① みんなでやる  
「みんなで読んでいる」「今は本を読む時間」という意識を児童にもたせることが大切である。静かに読んでいる姿がお互いに影響し合って、本を読むことが苦手、あるいはあまり好きでない子どもも読書に浸る雰囲気や教室や学校全体に作っていく。
  - ② 好きな本だけでいい  
好きな本(漫画や雑誌はだめ)を自分で選ぶことによって、自分をみつめることができ、新しい自分の発見にもなる。また好きな本なので意欲的に読むことができる。

読み聞かせの充実

- ③ 子どもたちに感想文やカード記入を求めない  
読むことそれ自体を楽しいと感じさせる。
- (2) 取組の充実・改善  
昨年4月から行っている朝読書であるが、読み取りの力をさらに定着させるために、取組の充実を図って改善させてきた。
  - ① 読み聞かせ  
開始当初は一人一人が本を用意して読書を行うことを基本としていたが、朝読書に変化を与え、聞くことで読みに対する集中力を高めるため、各学年・学級ごとに読み聞かせを取り入れてきている。
    - 1・2年生は週に1回、児童をワークスペースに集め、学校長が読み聞かせを行っている。
    - 2学期半ばからは、開放図書ボランティアの方と協力して、全校の各クラスで計画的に読み聞かせを行っている。
  - ② 寄託図書の利用  
○子どもたちにとってより価値のある本を読んでもらうために、2学期から低学年を中心に、同じ本を一斉に読む日を設けている。読んだ後、簡単な交流をもち、内容に対する理解をさらに深めようとしている。



ゲーム感覚で行い、操作が簡単

## 2 「漢字キット」の活用

操作が簡単で、短時間で行うことができ、結果もわかりやすいので、漢字学習の時などに子どもたちの抵抗感を取り除くため、使用している。

### (1) 漢字学習の導入として

新出漢字の学習の時に、部首だけを与え、子どもたちは組み合わせながら漢字を完成させていく。その後、読みや意味、熟語などを学習していく。新出漢字について見覚えのある子どもについては部首だけを見て組み合わせを考えさせる。全部が完成できない子どもには、新出漢字を見せてから組み合わせさせるなど、能力に応じ活用している。



### (2) 応用として

作業が早く終わった時や、休み時間など空き時間がある時に、子どもたちに自由に操作させている。該当学年の部首がすべて揃っているので、ゲーム感覚で操作することを通して、今まで習った漢字の復習だけでなく、これから習う漢字の予習にもなっている。

## 3 「算数教室」の実施

平成19年度の全国学力・学習状況調査や本校独自の学力テストの結果から基本的な計算力が定着していないことが明らかになり、算数教室を実施することになった。昨年度は100人だった参加者が今年度は129人に増加した。

### (1) 実施に当たって

対象児童は、基本的に自力でのパソコン操作が可能である2～6年生とし、パソコン室で実施。外部人材の教諭や担任外の教諭が連携して子どもへアドバイスなどの支援を行う。

### (2) 実際の活動

#### ① パソコンで作成した教材を使って（資料①）

○漢字キットと同様に、子どもたちの興味・関心を高めるため、たし算・ひき算ができる教材を自主開発し、取り組んでいる。作成している教材は繰り上がり、繰り下がりの計算が数字だけではなく、タイルも併用し量として数をとらえることができるようになっている。また、子どもたちが数値を打ち込むと正解、不正解が表示されるようになっている。

パソコンで計算問題を

自分の実力に合わせて取り組む

○子どもたちは新しい教材への興味、パソコンへの興味、操作の楽しさ、計算の流れの分かりやすさから、いつも静かに夢中になって計算問題に取り組んでいる。

② 自分の能力に合わせた取組

○算数教室では計算の速い子は、パソコンでの計算問題をどんどん先に進めることができるようになってきている。

○パソコンの問題がすべて終了した子ども

にはプリントを用意し、自分の能力に合わせた課題に取り組ませている。プリントが終わると、その場で答え合わせを行うことで、つまずきの理由を把握し正しい問題の解き方を身に付けていく。教師も一人一人の実態に合わせて、指導を行っている。



## IV 研究の成果と課題

### 1 本校の取組における成果

#### (1) 国語における成果

##### ① 「朝読書の時間」の設定 (資料②)

昨年度に比べ児童数が減少しているにもかかわらず、11月までの合計貸出数は昨年度は5,485冊であったのに対し、今年度は6,548冊と増加している。また、2学期以降、読み聞かせが本格的に実施されても、8月からの貸出数は昨年度を上回り、読書に対する関心が高まっていると考えられる。

##### ② 「漢字キット」の活用

漢字学習に意欲的に参加するようになってきている。休み時間の様子からは漢字に対する苦手意識がなくなりつつある子どもが増えていると思われる。

#### (2) 算数における成果

##### ① 「算数教室」の実施 (資料③)

参加しているほとんどの子どもが楽しいと回答するなど、子どもたちは意欲的に参加している。やり方がわかるようになったとの回答は99%、速く計算できるようになったとの回答は100%と、子どもたち自身も算数教室を通して、確かな力が身に付いたと実感しているものと思われる。

##### ② 「算数フォローアップ教室」の実施

理解が定着していない子どもへの指導が充実し、つまずきを取り除いてあげることができるようになった。

### 2 本校の取組における課題

#### (1) 国語における課題

##### ① 「朝読書の時間」の設定

火曜日・木曜日の実施となっているが、習慣化の確立には至っていない。今後、朝読書の曜日を増やす必要がある。

##### ② 「漢字キット」の活用

確実な定着を図るためには指導方法の工夫を図るとともに、補助プリントなどの併用により、学習効果を高める必要がある。

#### (2) 算数における課題

##### ① 「算数教室」の実施

算数に苦手意識をもっている子どもへの参加を促す必要がある。また、「図形」「数量関係」についてもプリント学習の充実など、効果的に指導を行う必要がある。


##### ② 「算数フォローアップ教室」の実施


放課後の時間を確保しづらいので、限られた時間で学習効果を高める指導の工夫が必要である。


## V 資料


○ 資料① 算数教室で使用しているパソコン教材

### いくつといくつ


1 9 は 7 と 2 


2 9 は 5 と 4 


3 9 は 3 と  


4 9 は 7 と  

たしざん


1  $5 + 5 = 10$  


2  $8 + 8 = 16$  

3  $5 + 3 =$   

4  $1 + 9 =$   

くりさがりのある ひきざん

1  $17 - 8 = 9$  

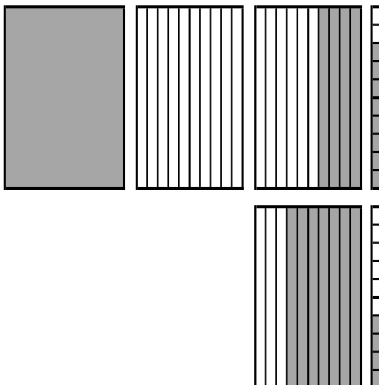
2  $16 - 9 =$   

算数 3けたのひきざん 名前

1

	1	4
	4	8

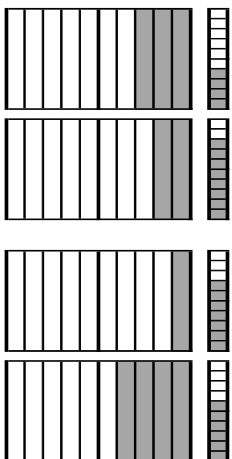
	7	4
	?	?



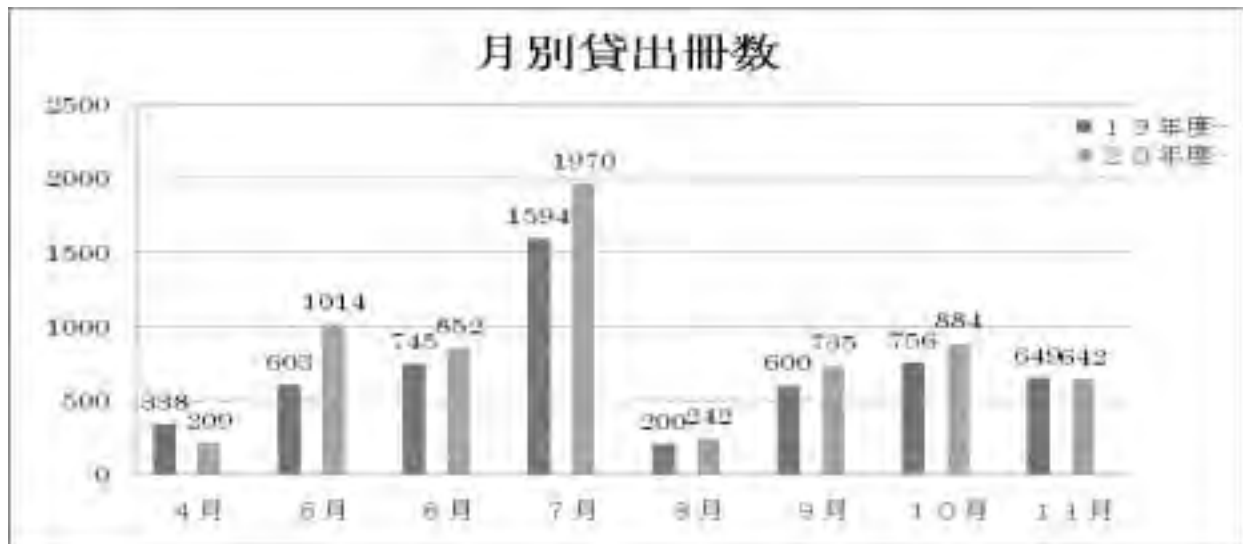
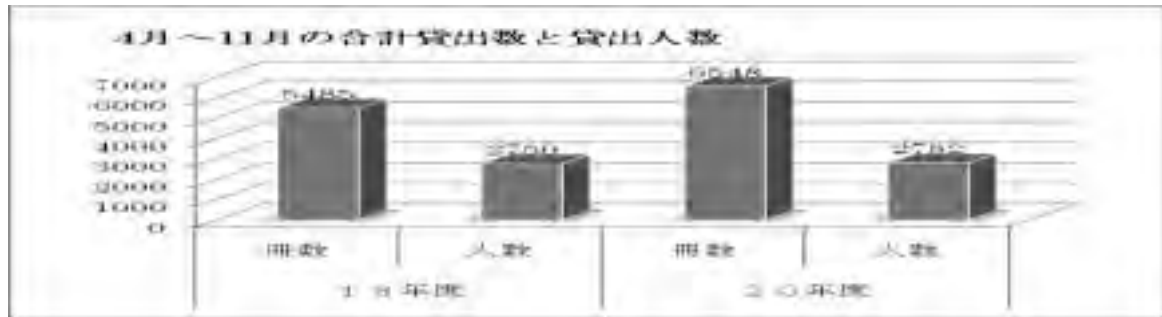
1

	?	
	3	4
+	2	8
	?	?

	1	7
+	4	6
	?	?



○ 資料② 図書館の本の貸出数の変化



○ 資料③ 算数教室アンケート結果（単位：%）

